



2019 四万十町体育はじめ

1月2日、2019体育はじめが窪川市街地でジョギングとウォー キングが開催され、新年を飾る恒例のイベントでジョギングに35 人、ウォーキング 43 人が参加しました。平成最後の四万十町体 育はじめになり、新たな思いで新春の窪川街路を走りぬけ、一







北ノ川小学校でジオラマ教室

1月31日、北ノ川小学校の5・6年生を対象に、海洋堂ホビー館四万十の出張ジオラマ教室を行いました。1辺が9 cmのアクリル製の箱の中に、想像力を働かせ、自由に2時間ほどの間、制作しました。

ホビー館の得意とするジオラマ教室を通して、子供たちの多様な経験や創造性を育むとともに、地域にあるホビー館の 魅力を伝えることで、ホビー館と地域の連携を深めることを目的としています。

ドローン推進協議会設立総会

2月6日、小型無人機「ドローン」を農業・観光・防災面などさま ざまな分野に活用するため、町内の産官が連携して「四万十町ドロー ン推進協議会」を設立しました。

町では本年度、総務省の地域IoT実装推進事業を活用し、光の波 長を可視化するスペクトルカメラ搭載ドローン3機を導入し、農業の高 齢化や担い手不足対策として農業用センサー(水位・水温・土壌 気象など)データと、ドローンで撮影した画像を画像解析ソフトで解



析し、特産の米や生姜などで、病虫害の早期発見をすることにより、品質の高位安定化・生産性の向上および作業効 率化を目指しています。

今後は、四万十川映像のアーカイブ活用や観光・防災面などの利活用や町内の学校などとの連携も視野に入れており、 高校生などがドローン操縦士として町内へ就職し更に次世代を育てる「将来につながるネットワーク組織」を予定しています。

歩一歩をしっかりと歩きました。





形成されるので、

も増加傾向の要因となっています。

花粉の飛散数は夏の気象条件が大きく影響し、

も舞い上がって再飛散するという状態が発生すること

一度地面に落ちた花粉が風に乗り何度

などの花粉が吸着・分解されにく

の伐採や間伐も減少したことや都市化によるアスファ

高度経済成長後、

大量に植えたスギ

は仁井田小学校の校務員。そ

にさらにその後、

臨時職員となりました。最初

なって(笑)」帰郷。小学校の

就いていた時に、医療事務の資

夏休みの

小学校の支援員に

われています

「スギ花粉情報」などで十分に注意し

翌春の花粉の飛散数は多くなるとい

雨の少ない夏は花芽が多く

▲半平カフェでもテキパキ!

事の得手不得手はあるもの 敷地さんも同じだと言います しく変わ 敷地さんの場合、苦手なこ ります。誰にでも仕

院の事務員となり 年の任期が終了。 たかったからです。そして、 の卒業に、どうしても立ち会い 支援員に復帰。3年間を共に 敷地さんの所属はめまぐる 小学校の子どもたち 役場の臨時 くぼかわ病 関わっていきたい」 誘われ参加。決め手は「LI のような形であ ぱり私は子どもが好きだ。 仕事をやってきたけ 支援」にありました。「いろんな E」の活動の中にある「子ども

そう

行ったのですが、その一方でスギ花粉の飛散量も爆発

建材としての価値が高い樹木の植林を

県内のゴルフ場に就職しま

八日く「故郷が恋

四万十

・高校を経て三重

敷地さんは田野々小から大

スギの花粉症を発症することにもつなが

ど成長が早く、

とっては急務でした。このため各地にスギやヒノキな

要が急速に高まり、 が主な原因です。 ○年頃から農林水産省が奨励してきた大規模スギ植林

戦後復興や都市開発などで木材の需

林業の拡大と造林は当時の日本に

そもそも日本でスギ花粉症が急増したの

は、

るといわれています。

日本で最も多い花粉症で、

約2千5百万人が患

支援は、 のこと。敷地さんは、 のある子どもを持つ保護者へ どでなかなか親子の さらに幅を広げていきたいと の支援などです 現在 LIFE」の子ども が、これからは い時間が取 共働きな レルギ

子どもに関わっ ぱり 私は子ども て い が好きだ

僚の嶋岡文さんとともに半平 IFEの職員として、 きたい!

季節

9

風景

スギ花粉症

校に通ったそうです 終えた後、 支援員として3年の任期を 高知市内の病院勤 再び窪川

カフェの切り盛りも任されてい

時に「」 臨時職員の任期 FE」の立ち上げに

しき じ あゆ み **敷地 鮎美**さん